

# 回復期リハビリテーションってなに? 「突然の脳卒中から自宅生活を送るまで」

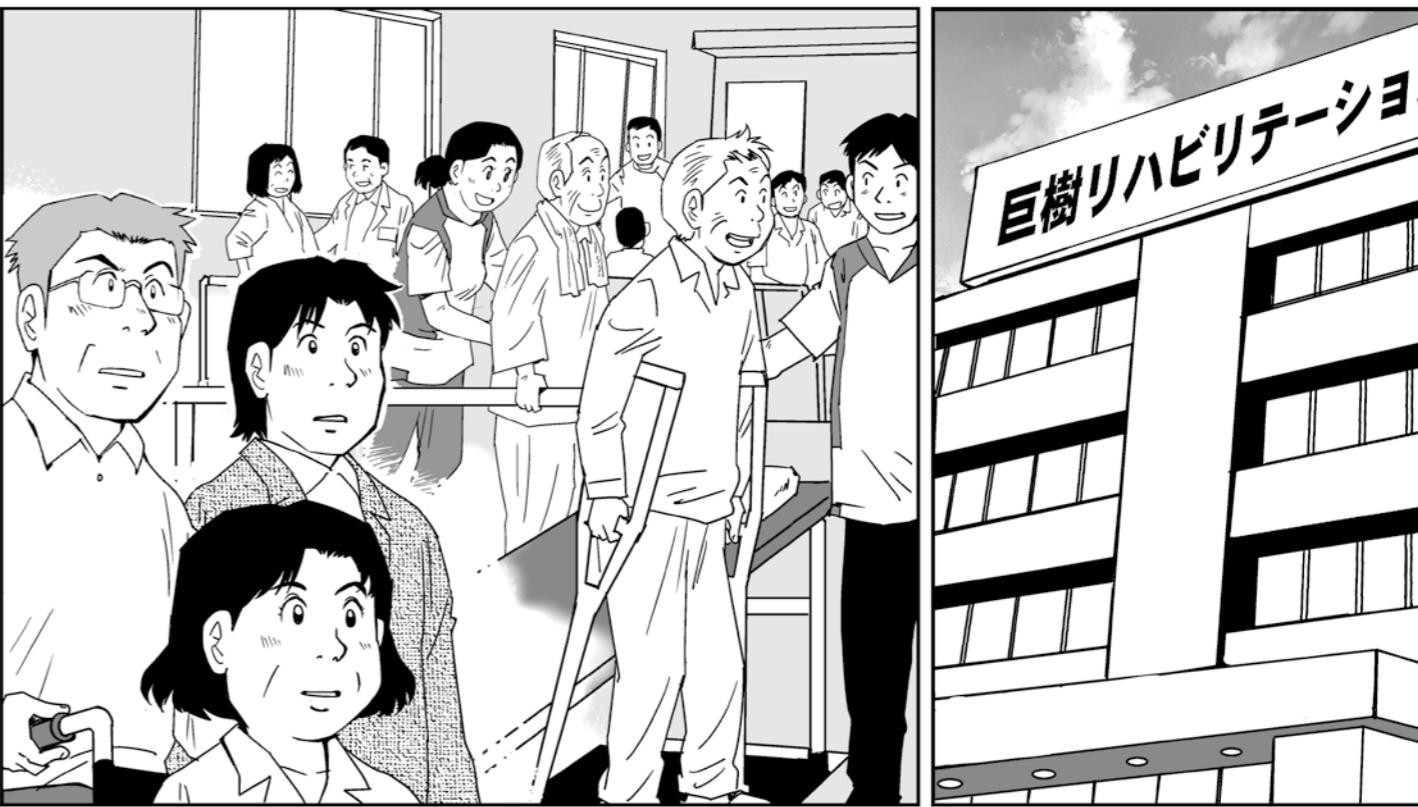
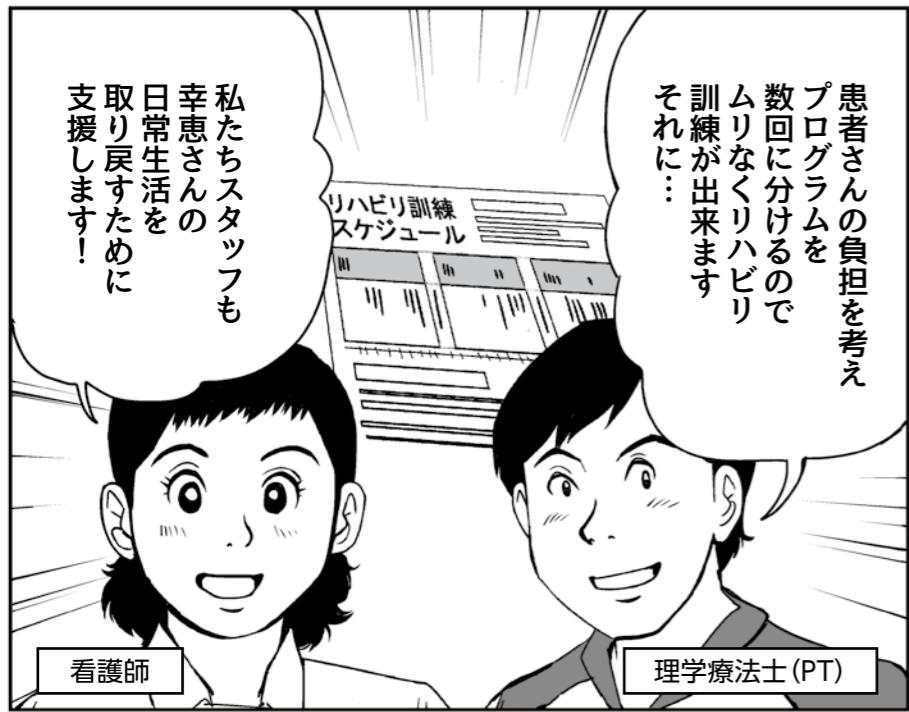


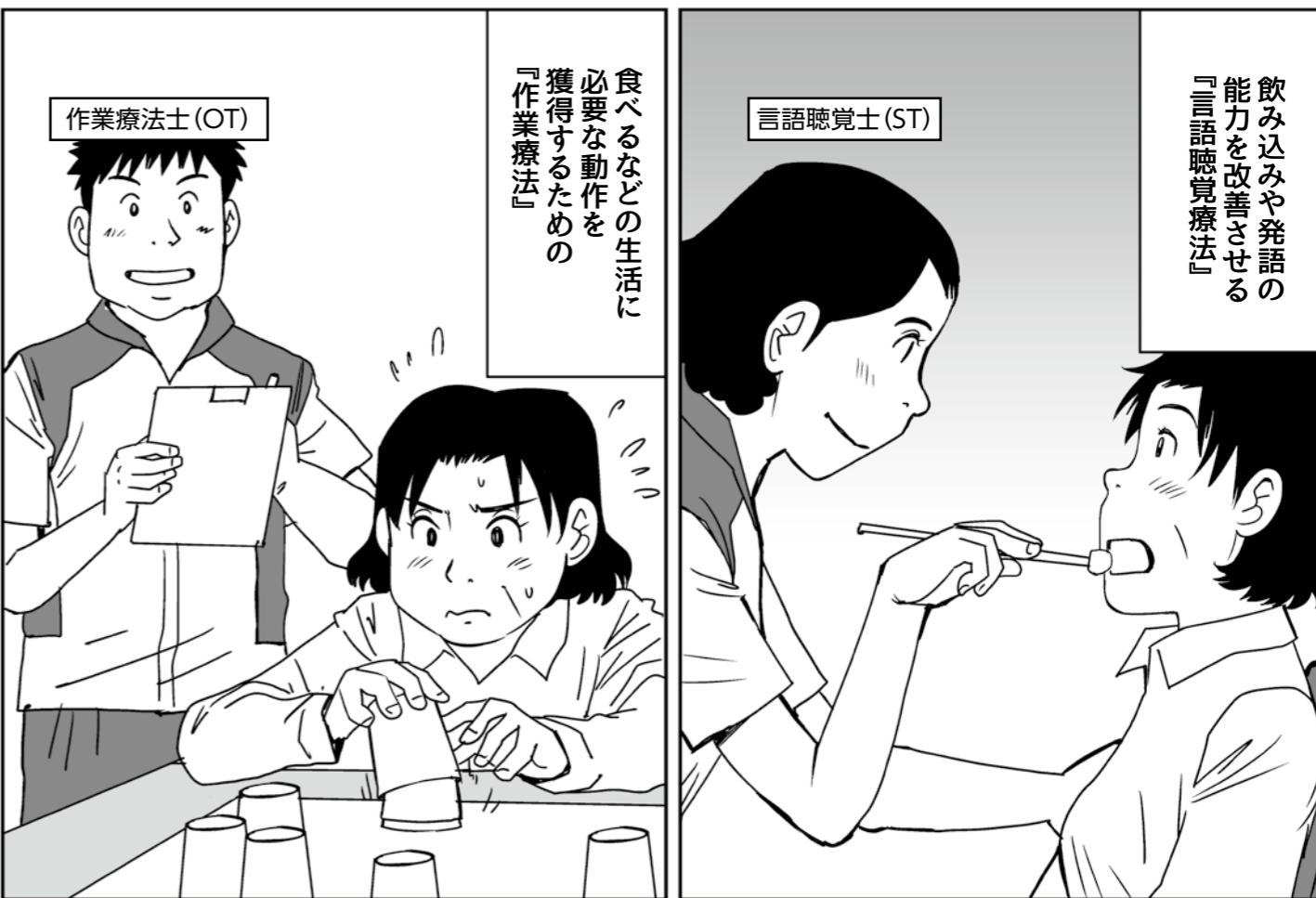
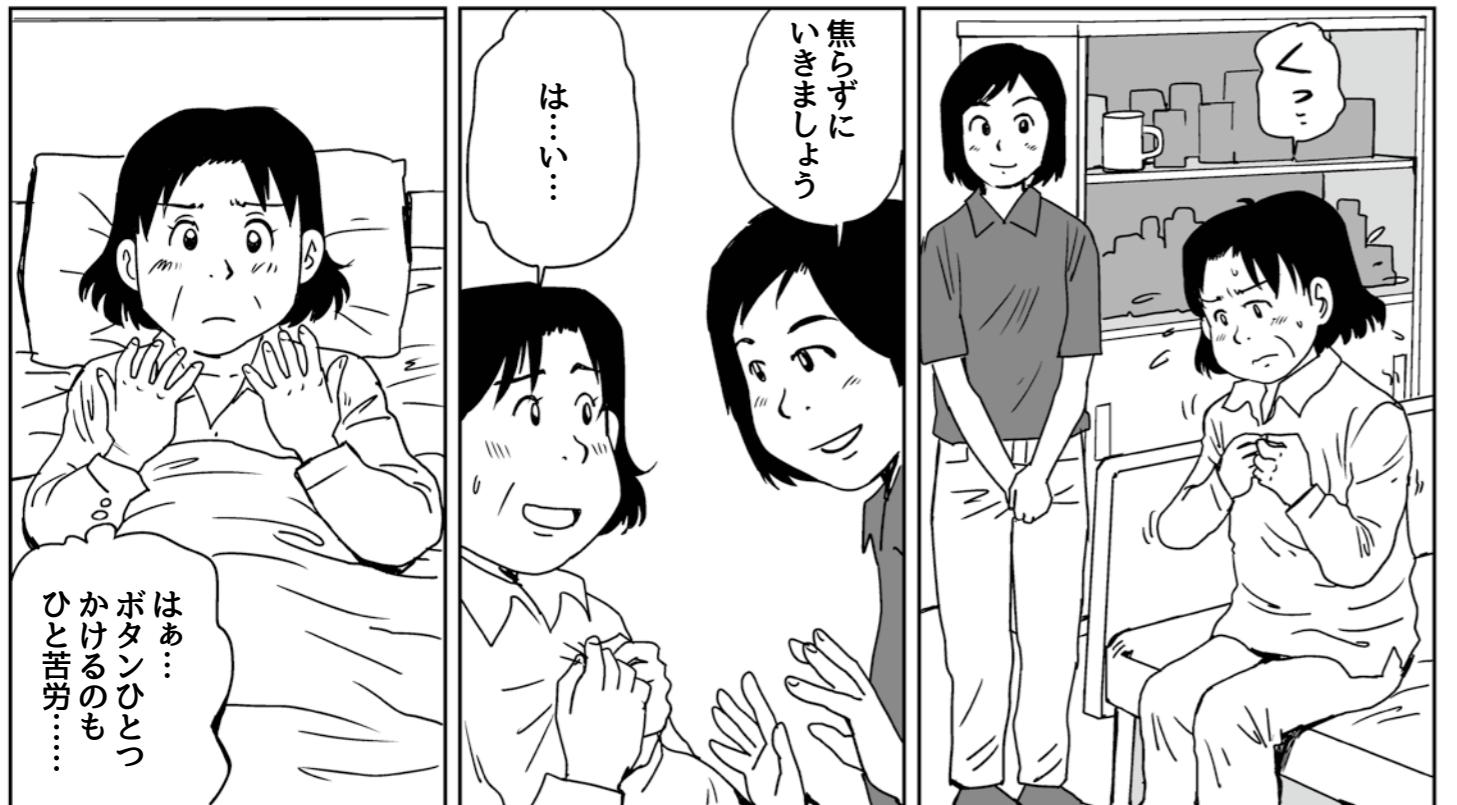
## ◆回復期リハの対象疾患と入院期間◆

(厚生労働省が定める回復期リハビリテーション病棟入院基準)

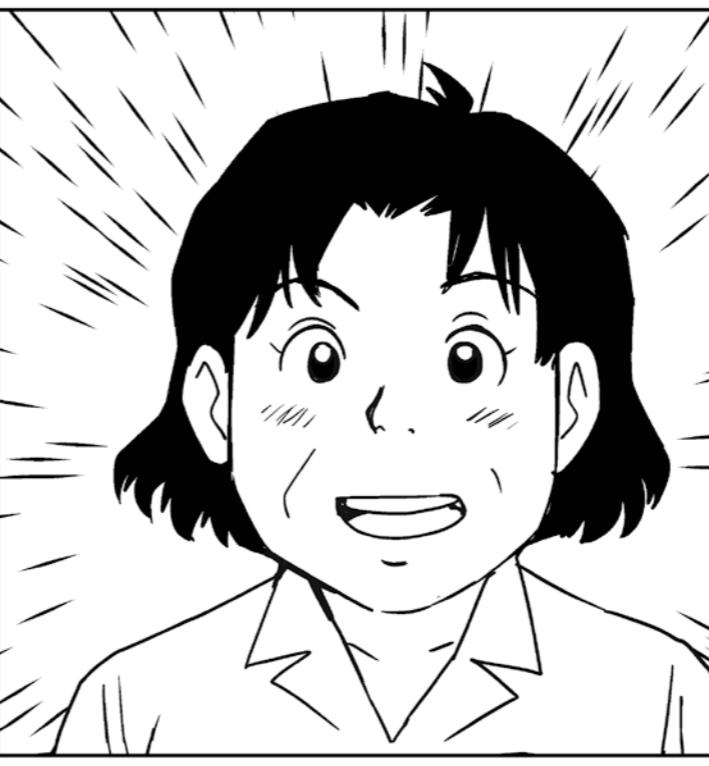
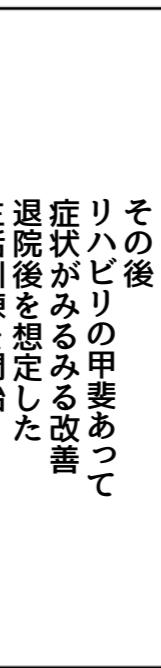
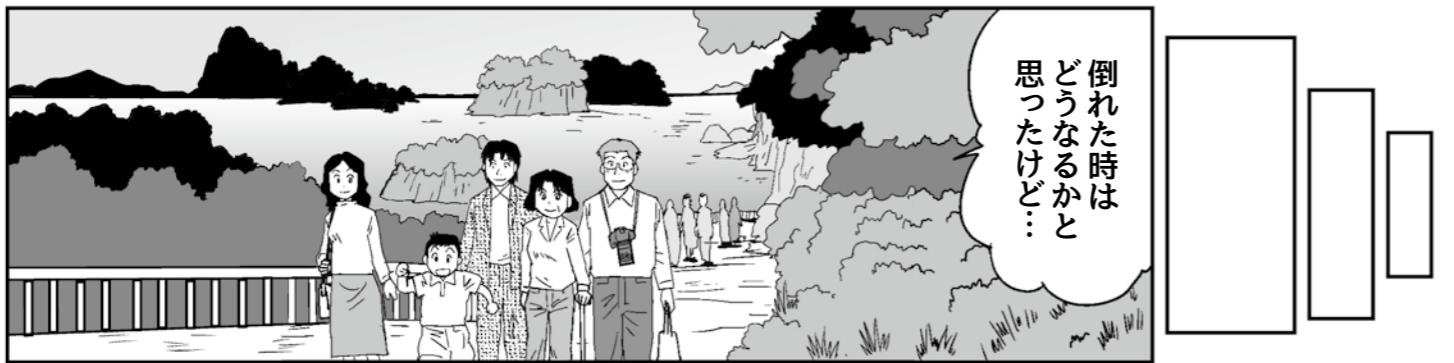
対象疾患	入院期間
脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷(わんしんけいそうそんじょう)等の発症後もしくは手術後、または義肢装着訓練をする状態	150日
高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷および頭部外傷を含む多部位外傷	180日
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折、または2肢以上の多発骨折の発症後、または手術後の状態	90日
外科手術または肺炎などの治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後	90日
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節または膝関節の神経、筋または靭帯損傷後の状態	60日
股関節または膝関節の置換術後の状態	90日
急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患または手術後の状態	90日











意外と知られていない

# 回復期リハビリテーション

回復期リハビリテーション病棟は急性期治療後のリハビリを主に行う病棟ですが、

誰でも入れるわけではなく、定められた条件に合う患者さまが入院可能。

しかし、実はこのルールはあまり知られていません。

この大事な期間を逃さないよう、回復期リハビリテーションの基本を押さえておきましょう！

## 目的

「リハビリテーション」全体の目的は、**治療後の社会復帰、生活の向上**です。回復期リハビリテーションは、**社会復帰の大きなターニングポイント**となる急性期治療後に行うリハビリ。**心身ともに「最もリハビリに適した期間」**である回復期に効果的なリハビリを行うのが重要です。リハビリのゴールは人それぞれ、年齢や生活環境、ご家族や周囲の状況により異ります。そのためカマチグループでは**ご家族を交えた面談**を入院前はもちろん入院中にも丁寧に行い、一人一人にカスタマイズしたリハビリを進めていきます。

## 対象

回復期リハビリテーション病棟の入院対象かどうかは、疾患により定められており、**疾患によって最大入院期間が決まっています**。右の表の通り、例えば脊髄損傷の場合は入院期間は最大150日ですが、骨折の場合は最大90日と大きな開きがあります。

\*2020年4月より、発症から転院までの期間の定めが廃止されました

対象疾患	入院期間
脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷（わんしんけいそうそんじょう）等の発症後もしくは手術後、又は義肢装着訓練を要する状態	150日
高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷および頭部外傷を含む多部位外傷	180日
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折、又は2肢以上の多発骨折の発症後、又は手術後の状態	90日
外科手術又は肺炎などの治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後	90日
大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は韌帯損傷後の状態	60日
股関節又は膝関節の置換術後の状態	90日
急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患または手術後の状態	90日

## 内容

リハビリ内容は疾患や状態、リハビリのめざすゴールに合わせてプログラムが組されます。大きく分けると、**理学療法**（筋力トレーニング、関節可動域訓練、歩行訓練）、**作業療法**（作業活動訓練、日常生活動作訓練）、**言語聴覚療法**（嚥下訓練、言語訓練、高次脳機能訓練）があります。これらの訓練は1日最大9単位=3時間（1単位=20分）が認められています。また、カマチグループではこれらの訓練だけでなく**入院中の生活すべてをリハビリ**とらえ、24時間ケア、サポートを行う体制を整えています。



次のページから「回復期リハビリテーション」を詳しくご説明します！

